

【全体議論】 テーマ「アンビエントネットワーク」

話題提供： 森 武俊（東大），栗原 聡（阪大）

センサーネットワークや各種ユビキタス技術は、従来の人と環境とのインタラクションの新しい枠組みをもたらすことが期待されている。人同士が円滑なインタラクションを行うことが出来るのは、互いが互いのモデルを長い時間をかけて五感や対話などを通して学習した結果であり、五感や対話は相手のモデルを獲得するための「センシング能力」である。また、人は獲得した相手のモデルを用いて、気のきいたインタラクションを実行する。そして、このインタラクションが効果的に実行できる時、我々は「阿吽の呼吸」とか「以心伝心」といった表現を用いると捉えることができる。さて、人の環境との間でこのようなインタラクションを可能とするためには、まずは環境に対して人のモデルを獲得するためのセンシング能力を付加するとともに、環境が人に能動的な働きかけを行うためのアクチュエータやロボット、モニタなど各種デバイスを付加する必要がある。そして、センサーネットワーク、得られるデータからのマイニング、マイニング結果を用いたインタラクションまでが「一貫性」を保ちつつ柔軟に機能することが求められる。そのような一貫性のあるシステムを表現するキーワードとして「アンビエントネットワーク」という用語が日本においてもちらちら使われ始めており、本議論では、このキーワードを中心に人と環境とのインタラクションについて意見交換を行いたいと思う。